

教員等業績一覧（2017年度）

○五十嵐泰正

【著書】

- ・『原発事故と「食」——市場・コミュニケーション・差別』中公新書，2018年2月。
- ・『「商売の街」の形成と継承』若林幹夫，立岩信也，佐藤俊樹編『社会が現れるとき』東京大学出版会，2018年3月。
- ・（早尾貴紀，本間信和，佐藤嘉幸，田口卓臣との合評会）『『脱原発の哲学』合評会』『『脱原発の哲学』を読む』読書人，2017年9月（電子書籍）。

【論文】

- ・「ストリート・プレイカーズによる「若者の街・柏」形成の歩み」『都市計画』66（3），2017年5月，54～57ページ。
- ・Michio Murakami, Yoshitake Takebayashi, Yoshihito Takeda, Akiko Sato, Yasumasa Igarashi, Kazumi Sano, Tetsuo Yasutaka, Wataru Naito, Sumire Hirota, Aya Goto, Tetsuya Ohira, Seiji Yasumura, and Koichi Tanigawa Effect of Radiological Countermeasures on Subjective Well-Being and Radiation Anxiety after the 2011 Disaster: The Fukushima Health Management Survey *International Journal of Environmental Research and Public Health* 15(1), 2018 Jan.

【記事，その他】

- ・（インタビュー記事）「人手不足の今を変革のチャンスに」『生活と自活』578号 22～23頁。
- ・『「食」をめぐる分断——台湾で見えてきた日本』『聖教新聞』，2017年6月29日。
- ・（下村恭広との共著）「特集1 解題：バブル期の都市問題とジェントリフィケーション論——なぜ「地上げ」は「ジェントリフィケーション」と呼ばれなかったのか——」『日本都市社会学会年報』，2017年9月，1～4頁。
- ・（小松理虔，山脇耀平，石井雅巳，瀬下翔太との座談会）「それぞれの町で 第一回」『POSSE』36号，2017年9月，92～105頁。

【学会報告，講演など】

- ・「人文社会系オーサービジット『みんなで決めた「安心」のかたち』」長野清泉女学院高校，2017年2月18日。
- ・「新インフォ施設のご提案——アメ横から上野へ」『上野街づくりビジョン会議 準備会合』上野区民館，2017年2月22日。
- ・（早尾貴紀，本間信和，佐藤嘉幸，田口卓臣との合評会）『『脱原発の哲学』合評会』筑波大学，2017年5月18日。

- ・「中央通り——上野の玄関口を考える」『上野街づくりビジョン会議 準備会合』上野区民館，2017年5月31日。
- ・「當農民的無奈？上市民的恐懼—日本生？者與消費者如何對食物輻射？染達成共識」YWCA 台北基督教女青年會，2017年6月7日（中国語通訳付きの日本語講演）。
- ・「[コントラストの魅力]の再興へ」『第18回上野商店街連合会総会』上野区民館，2017年6月12日。
- ・「福島県外の取組み：柏市の事例から 協働による信頼回復とその限界」『放射線災害医療サマーセミナー』福島県立医科大学，2017年8月23日。
- ・（企画・司会）「ラウンドテーブル1 都市／ストリート」『第35回日本都市社会学会大会』早稲田大学，2017年9月9日。
- ・“Challenges To Overcome Social Gaps Through Local Coproduction”, *Contemporary Japan Speaker Series*, the University of London King's College, 22 Mar. 2018.
- 【メディア出演】
- ・（コメント）『我們的島 第892集 核食能安？』台湾公共電視，2017年2月6日。

○奥山敏雄

【論文】

- ・「近代ホスピスの形成とシシリー・ソングラスの位置」『社会学ジャーナル』第43号，筑波大学社会学研究室，2018年，1 - 21頁。

○土井隆義

【論文】

- ・「少年非行の減少と宿命論の広がり—若年層における問題行動の変質をめぐって—」『世界の児童と母性』第81号，2 ~ 8頁，2017年4月，資生堂社会福祉事業財団。
- ・「いまどきの友だち事情—イツメンとキャラをめぐる光と影—」『児童心理』第71巻第6号，2 ~ 12頁，2017年4月，金子書房。
- ・「少年犯罪の社会的構築と実相」浜井浩一編『シリーズ刑事司法を考える第6巻 犯罪をどう防ぐか』第1章，2 ~ 21頁，2017年6月，岩波書店。
- ・「ラベリング」友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編『社会学の力』第50章，186 ~ 89頁，2017年6月，有斐閣。
- ・「地元志向と歴史感覚—内閉化に抗う歴史教育—」桃木至朗監修『地域から考える世界史—日本と世界を結ぶ—』第5章，334 ~ 348頁，2017年10月，勉誠出版。
- ・「「ほっち」が怖い！—大学生の人間関係をめぐる現状と課題—」明治大学学生

相談室編『学生相談』4～27頁，2017年10月，明治大学学生支援部。

- ・「子どもたちはどんな社会を生活しているのか—社会的格差の進行と幸福感の上昇が意味するもの—」『人間と教育』97号，2018年3月，民主教育研究所

【報告】

- ・「流動化する現代社会，固定化する仲間集団—学生コミュニティをめぐる今日の課題—」初年次教育学会第10回大会「大会企画シンポジウム～初年次教育と学生コミュニティ～」基調講演，2017年9月6日，中部大学。
- ・「青少年犯罪の動向と社会意識—犯罪社会学の視点から—」筑波大学生命環境系「第2回筑波嶺セミナー，2017年9月22日，筑波大学。
- ・「情報モラルの社会的格差—格差化する家庭養育の陥穽—」日本教育工学協会「第43回全日本教育工学研究協議会全国大会」ワークショップ，2017年11月25日，和歌山県民文化会館。

【その他】

- ・「ケータイ30年 道具を超えて—人間関係の分断を招く—」『東京新聞』『中日新聞』考える広場（4面）2017年4月15日，中日新聞社。
- ・「会話の友と，対話の友と—人間関係の軸足を増やそう—」『IKUEI NEWS』第78号，11～12頁，017年4月20日，電通育英会
- ・「幸福感をめぐる光と影（6）—キャラ化という対人技法の罨—」『日本教育』第466号，22～23頁，2017年4月25日，日本教育会。
- ・「ネットいじめ」なぜ—研究者と白熱議論—『読売中高生新聞』11面，2017年5月12日，読売新聞社
- ・「いまの若者たちにとって「個性的」とは否定の言葉である—ゆとり世代との付き合い—」『現代ビジネス』，2017年6月6日，講談社。
- ・「幸福感をめぐる光と影（7）—いじめ問題といかに向き合うか—」『日本教育』第468号，22～23頁，2017年7月1日，日本教育会
- ・「フェイクニュースの広がり—閉じた関係の中で共鳴—」『北海道新聞』各自核論（7面）2017年7月8日。
- ・「人間関係を広げて対面コミュニケーションを大切にしよう」東進ドットコム「高校生の悩み解決サイト・悩み相談Q&A」2017年8月1日，東進ハイスクール。
- ・「大切なのは「自分の世界を広げること」」東進ドットコム「高校生の悩み解決サイト・悩み相談Q&A」2017年8月1日，東進ハイスクール。
- ・「幸福感をめぐる光と影（8）—貧困率から見えない貧困問題—」『日本教育』第470号，22～23頁，2017年9月1日，日本教育会。
- ・「インターネットはどんな「つながり」を紡ぐのか—ネットが深めた「つながり」の問題と今後への期待—」『くらしと協同』第22号，11～18頁，2017年9月25日，くらしと協同の研究所。
- ・「学校現場の同調圧力—子ども追い込む要因に—」『北海道新聞』各自核論（7

面) 2017年10月21日.

- ・「幸福感をめぐる光と影 (9) —ネット依存をどう理解するか—」『日本教育』第472号, 22~23頁, 2017年11月1日, 日本教育会.
- ・「居場所を求める「拡張現実」」『中日新聞』31面, 2017年11月26日.
- ・「幸福感をめぐる光と影 (10) —学校文化のなかの子どもたち—」『日本教育』第474号, 22~23頁, 2018年1月1日, 日本教育会.
- ・「コミュ障でもいいじゃないか—お金と同じ, 使い方次第—」『読売新聞』解説面, 11頁, 2018年1月9日.
- ・「青少年の健全育成と多様な価値観に触れること—宿命主義的な人生観に囚われないために—」『人権尊重の社会』, 1~7頁, 2018年3月, 東京都青少年・治安対策本部.
- ・「保守化する現代の若者たち—流動化する社会への反動—」『北海道新聞』各自核論 (7面) 2018年3月3日.
- ・「コミュニケーションカー—どうして重要になったのか—」『読売プレミアム』2018年3月6日, 読売新聞社.

○野上 元

【論文】

- ・「戦争社会学」が開く扉『戦争社会学研究』(戦争社会学研究会) 1号, pp. 19-33, 2017年.
- ・「歴史が聞こえてくること—方法的ラディカリズムと歴史への愛」(『日本オーラル・ヒストリー研究』(日本オーラル・ヒストリー学会) 第13号 (特集1「保莉実記念シンポジウム・いまあらためて「保莉実の世界」を探る)), 2017年, p7-18.

【講演・報告】

- ・「誰／何が原爆の恐怖を媒介したのか? : 原民喜における「報告」と「予感」シンポジウム「戦争文学のトラウマ」(甲南大学人間科学研究所公開研究会), 2017年8月10日
- ・「戦争の歴史」を復習する: 歴史社会学から現代の戦争を考えるために」坂の上の雲ミュージアム(松山市)ミュージアム連続講座「近代国家とは何か」2017年12月9日

【その他】

- ・「小文」『創刊の言葉』『戦争社会学研究』(戦争社会学研究会) 1号, pp. 1-3, 2017年.
- ・「事典項目」『九段』招魂社『小森陽一・飯田祐子・五味渕典嗣・佐藤泉・佐藤裕子・野網摩利子編『漱石辞典』(翰林書房), 2017年, p131, p280-281.
- ・「書評」『書評 望戸愛果『「戦争体験」とジェンダー』(明石書店, 2017年)』『図書新聞』3309号, 2017年7月1日.

- ・[書評論文] 元森絵里子・佐藤雅浩・山田陽子・池田和弘・貞包英之・野上元
「貞包英之・元森絵里子・野上元著『自殺の歴史社会学：「意志」のゆくえ』
(青弓社、2016年)一書評と応答一」『研究所年報』(明治学院大学社会学部付
属研究所)48号、2018年、p39-56.
- ・[講義ノート]「問いをいかに立てるか? —— 社会学研究法 III(ライティング)
講義ノート」『社会学ジャーナル』(筑波大学社会学研究室)43号、2018年、p
99-111.
- ・[メルマガ連載]「近現代史の社会学」光文社新書メールマガジン、vol. 86、88
-89、94-95.

○黄 順姫

【報告書・その他】

- ・「なぜ同窓会・同窓生ネットワークが生徒・学生のキャリア形成・就職不安に
影響を及ぼすのか」『日本教育社会学会第69回大会』一橋大学、2017年、20-
21頁。

【学会研究発表・講演】

- ・「なぜ同窓会・同窓生ネットワークが生徒・学生のキャリア形成・就職不安に
影響を及ぼすのか」『日本教育社会学会第69回大会』一橋大学、2017年、10月
21日。
- ・「地域の教育力/大学の地域力—現代無縁社会のTメンター会成功モデル—」
シンポジウム『チャレンジするIBARAKIの未来創生—』つくば市ノバーホール、
2017年4月9日。
- ・「スポーツ・部活動の身体文化に関する日本・韓国の比較—社会的・文化的構
造と時代の変容—」成城大学、2017年7月19日。
- ・「オリンピックの観戦・記憶・遺産と身体文化—メガスポーツイベントの社会
学—」『スポーツと健康』青森公立大学公開講座、青森市新町キューブ・グラ
ンパレ、2017年12月21日。

○森 直人

【口頭発表】

- ・「趣旨：公教育の再編と子どもの福祉——「多様な教育機会」の視点から」日
本教育学会第76回大会ラウンドテーブル、桜美林大学、2017年8月25日。
- ・「「公教育の再編と子どもの福祉」の分析視点と問題領域」第9回多様な教育機
会を考える会、上智大学、2017年9月17日。
- ・「団地のなかのテレビと「家族談笑」」東京大学社会科学研究所SSJデータアー
カイブ・二次分析・課題公募型研究成果報告会『戦後福祉国家成立期の福祉・
教育・生活をめぐる調査データの二次分析』、東京大学、2018年3月9日。
- ・「社会調査・個票データの計量分析・二次分析と歴史分析とのあいだ——時

代・出来事・調査資料」第65回数理社会学会大会・シンポジウム「計量歴史研究の成果と課題」, 成蹊大学, 2018年3月14日.

○穂山 新

【論文】

- ・「戦中・戦後期の社会学における中国研究と「共同体」」『社会学ジャーナル』第43号, 社会学研究室, 49-68頁.

【学会報告】

- ・「中国初期合作社における成員資格の理念と表象——華洋義賑会の合作事業を事例に」日中社会学会第29回大会, 大阪大学吹田キャンパス, 2017年6月3日.

大学院生（国際公共政策専攻）業績一覧（2017年度）

○井上恵子

【学会報告】

- ・「エスニシティという概念の批判的検討——経験のない「民族」を考察するために」第90回日本社会学会大会，東京大学本郷キャンパス，一般研究報告（2），2017年11月4日

○岡村逸郎

【学会報告】

- ・「社会問題の構築主義における『専門家』に関する再検討——A.アボットの専門職論の考察をととして」日本社会学会第90回大会，テーマセッション19第3報告，2017年11月15日，東京大学本郷キャンパス

○秋本光陽

【学会報告】

- ・「ハワード・ベッカー——「アンダードッグの社会学」再考」日本社会学理論学会第12回大会，一般報告，明治大学（2017年9月3日）

【研究ノート】

- ・「『革命』としてのゴルト判決とアイデンティティをめぐる政治」『社会学ジャーナル』第43号，筑波大学社会学研究室（2018年3月）

○周 筱

【論文】

- ・「何為“幼女”：以社会問題論研究法視角新論嫖宿幼女罪」潘綏銘，黃盈盈編『積淀与反思：第六届中国性研究國際研討會論文集』香港1908有限公司，2018年，近刊。
- ・「中国における未成年者に対する性的侵害の規定の変遷——1979年から1997年まで」『社会学ジャーナル』第43号，筑波大学社会学研究室，2018年3月，81-97頁。

【学会報告】

- ・「『幼女』の語られ方」日本社会学会第90回大会，東京大学本郷キャンパス，2017年11月5日。
- ・「『児童』与性的距離—中国預防性侵法制改革過程中“幼女”主体性的話語呈現」第六届中国性研究國際研討會，哈爾濱医科大学，2017年7月5日。

○高橋康史

【学会報告】

- ・「スティグマ解消戦略としての自己の多元化：『家族の犯罪』に関する語りから」日本社会病理学会第33回大会（第2回犯罪学合同学会），國學院大學，2018年9月3日。
- ・「家族が『立ち直ることは可能か：非行臨床における家族支援論の限界（テーマセッション・非行少年の『立ち直り』を考える：パネルインタビューにもとづく批判的検討）」日本犯罪社会学会第44回大会（第2回犯罪学合同学会），國學院大學，2018年9月3日。
- ・「ピア・サポートにおける仲間と共通性に関する考察：犯罪者を家族にもつ人びとの『回復』の物語から」，日本社会福祉学会第65回秋季大会，首都大学東京，2018年10月22日。
- ・「スティグマを負わされたアイデンティティと〈回復〉の希求——『家族の犯罪』をめぐる経験の組織化」第90回日本社会学会，東京大学，2018年11月4日。

【講演】

- ・「刑務所や少年院を出た後の地域生活 ～グループホーム，BBS活動，協力雇用主から学ぶ～」2017年度第2回 よりそいセミナー，大阪府社会福祉会館501（ホール），2018年9月25日。
- ・「刑務所ぐらし，シャバぐらし」一般社団法人よりそいネットおおさか主催，阿倍野長屋，2018年11月13日。

○富井久義

【学位論文】

- ・「ボランティア活動におけるふるまいと認識についての社会学的研究——社会的意義と参加の論理の関係」筑波大学大学院人文社会科学研究所博士（社会学）論文，2018年3月。

【論文】

- ・「森林ボランティア活動における社会的意義の語られかた——都市住民が形成するコモンズとしての鳩ノ巣フィールド」『環境社会学研究』第23号，環境社会学会，2017年12月，99-113頁。
- ・「森林ボランティア活動における安全管理をめぐる議論のアリーナ——リスクの最小化と身体のコントロールを介して結ぶ自然との関係」『社会学ジャーナル』第43号，筑波大学社会学研究室，2018年3月，23-47頁。

○李 岱真

【学会報告】

- ・「ソーシャルワーカーの援助と監視に関する現代の特徴—台湾における少年輔導実践に注目して」日本社会学会第90回大会，東京大学本郷キャンパス，2017

年11月.

○野上 亮

【学会報告】

- ・「[「参加する」教養主義のメディア—雑誌『労働北九州』『緑と太陽』を事例として]、第90回日本社会学会大会一般研究報告，東京大学本郷キャンパス，2017年11月

【研究会報告】

- ・「初期民間放送における「民放像」の模索—雑誌『CBCレポート』を事例とした放送史的考察」，〈自己・表象〉研究会，法政大学市ヶ谷キャンパス，2017年7月

○目黒 茜

【共同研究助成】

- ・木村豊，Cary Karacas，山口範子，後藤美緒，岩楯豊，Justin Aukema，西井麻里奈，目黒茜（外部研究協力者），「戦争災害前後の日常生活の記憶継承に向けたアクションリサーチの実践的研究」，『トヨタ財団 2016年度研究助成プログラム（A）共同研究助成』，2017年5月—2019年4月

【個人研究助成】

- ・「[「産む身体」の歴史社会的考察—1920～1930年代の医療的啓蒙言説に注目して—]『東海ジェンダー研究所 2017年度（第21回）個人研究助成』2017年度.